

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シートに対する委員意見及び担当課回答

重点 方策	番号	事業名	担当課	意見	担当課回答欄
I-1-1	1	道徳教育推進プロジェクト	指導課教育課程室	道徳教育の実施した成果について、児童生徒の反応についていかがだったでしょうか。(総じて、または2、3の例でも結構です。)実践資料集を配付したとありますが、一般的に見ることは可能でしょうか。	実践資料集「心豊かに」には、授業後の児童生徒の感想や保護者の感想が掲載されています。「生命の尊さ」をテーマに行った授業後、児童は「自分のお父さん、お母さんは自分たちを大事にしてくれているんだと思って、感謝の気持ちでいっぱいになりました。」という感想を書き、保護者は「命について深く考える機会をいただけてよかったです。娘は命の大切さを再確認したようで、涙が出たと話してくれました。」という感想を残しています。実践資料の内容は、各学校、市町村教育委員会及び県立図書館に送付しております。
I-1-1	1	道徳教育推進プロジェクト	指導課教育課程室	道徳教育の教科化に向けて、現場の教師が、研究授業等から、押しつけではなく、自ら課題を見つけ、計画し、評価して行くのか・・・その様な機会と場の提供は当然なされているとは思いますが、この研修はトップダウンではなく、主体的で、本音で話れる懇談会や研修会の場であれば次の展望が楽になるのではないのでしょうか。27年度決算で4,370千円、28年度決算で2,287千円がマイナスになっており、29年度予算案は32,444千円(国費25,808千円・県費6,636千円)となっていますが、前年度より明確な新規計画が盛り込まれた上での予算措置なのではないでしょうか。	今年度、小学校道徳教育推進教師研修会は4回計画しており、教科化に向けてリーダーの育成を図っています。毎回、各校の現状と課題等について小グループで情報交換する時間も確保し、参加者が本音で語り合い主体的に取り組めるよう、工夫しています。今年度予算については、特に、どうしたら道徳の教科化にスムーズに移行できるかを念頭に置いて検討し、新規事業を計画したり、研究協議会の回数や内容を見直しているところです。
I-1-1	2	学校人権教育の推進	指導課人権教育室	「学校人権教育の推進に関する実態調査」の実施の結果はどのようになったのでしょうか。	調査結果は報告書として、平成28年度末に県内全ての公立小中高等学校、特別支援学校及び各教育事務所へ配付しました。分析結果を考察して、課題となる項目については「学校にお願いしたいこと」として具体的に明示しており、各校の今年度の推進計画に位置づけるよう求めています。また、所管事業の協議会や研修会の中でも周知化を図っております。
I-1-1	2	学校人権教育の推進	指導課人権教育室	人権教育の基にもなる、自尊感情・他尊感情が育つ具体的な教育が必要ではないでしょうか。	これまでも、協議会や研修会を通じて自尊・他尊感情を深める必要性を訴えてまいりましたが、今後も発達段階に応じた指導と全教育活動を通じた取組において、自尊・他尊の感情を深められるよう、指導課内、各教育事務所、各市町村教育委員会とも連携しながら周知を図ってまいります。
I-1-1	3	ちばっ子「学力向上」総合プラン	指導課学力向上室	実施結果に「読書活動や体験活動を通じた学習意欲向上」がうたわれており、事業の成果として読書活動については触れておりますが、体験活動についてはいかがだったでしょうか。	体験活動については、「特別非常勤講師配置事業」や「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業等、4事業を実施しております。参加している児童生徒、先生方から高い評価をいただいておりますので、今後も継続してまいります。
I-1-1	3	ちばっ子「学力向上」総合プラン	指導課学力向上室	「学力向上」に向けて様々な取り組みがなされており、更なる推進を期待します。	御意見、ありがとうございました。今後も評価・改善をすすめ、よりよいプランとなるよう取り組んでまいります。
I-1-1	3	ちばっ子「学力向上」総合プラン	指導課学力向上室	学童クラブの児童にも学習支援を行えないでしょうか。(各学科ごとのプリント等)私のところでは手作りプリントで学習に力を入れています。	「ちばっ子チャレンジ100」や「家庭学習のすすめ」サイトに基礎・基本や思考力・判断力を高める問題、家庭学習に活用できる問題を紹介しておりますので、活用いただけたらありがたいと思います。千葉県教育委員会ホームページの「ちばっ子『学力向上』総合プラン」から入ることができます。
I-1-1	4	いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の実施	体育課学校体育班	日常生活能力の向上は今の子どもに重要です。参加校数アップに向けて、各校の運動会は保護者も多く参加しており盛り上がりっておりますので、この場に本件を持ち込めないのでしょうか。	遊・友スポーツランキングちばの8種目の中で、「長縄みんなでジャンプ」は中学校の運動会などでも実施されていますが、ルールが各学校によって少しずつ異なっていたりするため、あまり報告をいただけていないという現状があります。体育主任等研修会において、各学校の行事等で実施されているものを本事業のルールに合わせ、校内だけでなく他校とも競い合えるよう呼びかけをしてまいります。
I-1-1	4	いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の実施	体育課学校体育班	より多くの学校に参加していただくために種目等の検討をお願いします。	平成19年度から実施している本事業は、参加率を高めるために、現在の8つの種目のうち2つについて種目を追加・変更するなどの改正を行ってきました。更に多くの小・中・高等学校、特別支援学校で取り組んでいただけるよう、研修会等で呼びかけるとともに、種目や内容、実施方法について検討してまいります。

重点 方策	番号	事業名	担当課	意見	担当課回答欄
I-1-1	4	いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の実施	体育課学校体育班	運動能力は幼児期からの外遊び等で養われるように思われますので、幼稚園や保育園等にも力を入れていただければと思います。	体育課では、指導課や総合教育センターと連携して、幼児期における体力づくり事業として、幼稚園教諭や保護者対象の研修会や講習会を年間4回実施しています。今後も幼児が運動に親しみながら運動の楽しさを感じ、進んで運動に取り組む環境整備を進め、幼児の体力向上へ積極的に取り組んでまいります。
I-1-1	4	いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の実施	体育課学校体育班	県内公立学校の4分の3が取り組んでいない状況を見ると、別の形の事業を考えるべきではないでしょうか。	小・中・高等学校、特別支援学校全体での実施率は25.7%ですが、小学校では36.7%が実施しており、他の校種の実施率が低いという現状があります。種目を改定して、中・高等学校の参加率を向上させられるよう、種目や内容、実施方法について検討してまいります。
I-1-1	5	千葉県競技力向上推進本部事業	体育課スポーツ推進室競技スポーツ班	放課後子ども教室の助成で卓球台とサッカーゴール等をいただき、外でサッカーや野球、室内で卓球等子どもたちも大喜びで身体を動かしています。色々な助成があるとありがたいです。	トップアスリート等活用事業では、スポーツ少年団や地域スポーツクラブ等に、オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として派遣し、技術指導やデモンストレーションなどを行っています。講師の報償費と保険料は、県が負担します。
I-1-1	5	千葉県競技力向上推進本部事業	体育課スポーツ推進室競技スポーツ班	優れた能力を持つ選手の発掘・指導者養成、強化活動・等の具体的なイメージがわきにくいのですが、具体的にどのような取り組みを行っているのでしょうか。	選手の発掘では、地区別の練習会等を実施し全県から広く選手を発掘、指導者養成では、指導者研修会への参加や全国大会等の視察などの費用を支援、強化活動では、選抜選手による練習会や合宿、遠征等を行っております。
I-1-1	6	千葉フィールドミュージアム事業	文化財課学芸振興室	記載の参加数に内訳（子どもと大人）を併記して欲しいです。さらに普及を図るために、現行の4か所のフィールドミュージアムに加えて、県下各地域に広げてはどうか。	現在、事業参加者の内訳について詳細には把握していないため、今後記録に努めます。フィールドミュージアムの地域拡大については、博物館が担う事業全体の推進の中で検討してまいります。
I-1-1	6	千葉フィールドミュージアム事業	文化財課学芸振興室	フィールドミュージアムとして教育効果は大変期待される場所ですが、安全確保のために1回の参加者を減らさざるを得ない、との課題解決にはどの様な解決策を立てているのでしょうか。今後益々、おかれている地域、施設の特性を活かす包括的なまなびの体験は大きく期待されますが、予算計上が少なすぎるとかと思えます。	学校連携などで多人数の参加者が見込まれる場合は、引率教員に対し事前に安全講習等を行い、実施の際の安全対策面で職員のサポートをしていただくような方策をとっています。事業費については、引き続き予算確保に努めてまいります。
I-1-1	7	青少年教育施設の運営	生涯学習課社会教育振興室社会教育施設班	プログラムや運営方法について、各施設ごとに運営協議会が設置されていて利用者のニーズに応えるようにされていると思いますが、さらに、食堂のメニューなど、ファミレスになれた子どもや親にとって、厳しい見方をします。なお、施設は自然体験活動や生活体験活動の青少年の育成およびその指導者の訓練に有効な拠点です。少子化の影響などにより利用者数が減ったからといって現在の5施設を減らすことのないよう願います。	青少年教育施設で自然体験活動や生活体験活動を通してどのような教育的効果が期待できるかを広く周知し、青少年教育施設を活用した研修の推進を図っていきたく考えます。また、青少年教育施設、指定管理者制度により運営しておりますが、連携体制を充実させ、よりよい環境で運営できるように指導をしています。
I-1-1	7	青少年教育施設の運営	生涯学習課社会教育振興室社会教育施設班	23年度の利用者数が多かったその分析、26年度団体利用数が多かったその分析はなされているのですか。また、各教育施設毎の特性を打ち出し、その事業企画で広報しない限り、利用者数は頭打ちではないのでしょうか。そのための施設間共同取組、戦略会議も必要ではないでしょうか。	23年度の利用者増は福島県からの被災者の受け入れ、26年度は近隣施設の改修工事によるものです。毎年、施設の利用状況については分析を行っており、次年度の目標設定、広報活動等に活かしております。施設長会議や職員研修会等を通して青少年教育施設の運営について共通理解を行い、検討会議も積極的に取り入れていきたいと思えます。
I-1-1	8	子どもの読書活動推進事業	生涯学習課社会教育振興室社会教育班	読書活動は、子どもにとって基礎学力向上につながり、大変重要なことです。特に、低年齢から習慣づけるよう、事業推進を期待します。	貴重なご意見ありがとうございます。リーフレットの配付、子ども読書の集い、読み聞かせボランティア入門講座等、子どもたちの読書活動の推進を図ってまいります。
I-1-1	8	子どもの読書活動推進事業	生涯学習課社会教育振興室社会教育班	0歳児の保護者を対象として配布する「ブックスタート」のリストのリーフレットを作成し、妊娠中の母親教室や両親教室で配布できると良いと思います。	貴重なご意見ありがとうございます。対象年齢を引き下げたことにより、より早い段階からの啓蒙につなげていきたいと考えます。多くの機会をとらえて、配付を行ってまいります。
I-1-1	9	通学合宿推進事業	生涯学習課社会教育振興室社会教育施設班	通学合宿事業の効果は子どもの育成にとって有効であると認められます。県立青少年教育施設は山奥にあり交通には不便で、宿泊施設の確保の困難さは理解できますが、実施事例の情報交換など行って事業の普及を期待します。	28年度は17市町と5つの青少年教育施設で、合計43事業が行われました。このうち県立青少年教育施設を会場としたのは10事業で、残りの33事業は各市町の公民館や生涯学習センター等を活用し、実施されました。県ホームページや各種会議での事例紹介等を通して広報活動を積極的に行っていきたくと思えます。

重点 方策	番号	事業名	担当課	意見	担当課回答欄
I-1-1	9	通学合宿推進事業	生涯学習課 社会教育振興室 社会教育施設班	ボーイスカウトやガールスカウトといった団体の協力・サポートを要請してはいいでしょうか。	ボーイスカウトやガールスカウト等の様々な団体への通学合宿推進事業への協力要請も視野に入れて検討していきたいと思います。
I-1-1	10	「ちば・ふるさとの学び」活用推進事業	教育政策課 教育立県推進室推進班	予算0で資料の印刷等はどのようにされているのでしょうか。	現在は、冊子等の印刷は行っておりません。各学校等は、ホームページから必要な部分を印刷するなどして本冊子を活用しています。
I-1-1	10	「ちば・ふるさとの学び」活用推進事業	教育政策課 教育立県推進室推進班	説明が簡略化されすぎて内容が分からないので、もっと具体的に記述すべきではないでしょうか。	改訂内容を記載する等、より具体的な説明となるよう努めてまいります。
I-1-1	11	ライフステージに応じた健康づくり推進事業	健康づくり支援課 食と歯・口腔健康班	生活習慣病は小学生の段階でも深刻化していると聞きます。事業の対象年数をもっと引き下げるべきではないでしょうか。	乳幼児から学童期は、親による影響も大きいため、青年期・壮年期を対象として、将来及び現在の親世代への取組を推進してまいります。
I-1-1	11	ライフステージに応じた健康づくり推進事業	健康づくり支援課 食と歯・口腔健康班	適切な食生活を身につけることは健康づくりに欠くことができないので、今回の大学生へのアンケート実施によって効果を確認できたのはよかったですと思います。対象となった大学生は何名だったのでしょうか。	学生食堂及び売店利用者を対象に食育の取組を実施したため、利用者が対象者となっています。そのうちアンケート回収数は81名でした。
I-1-1	12	ちば食育活動促進事業	安全農業推進課 食の安心推進室 食育推進班	JAさんに協力していただき安心安全、新鮮な野菜ですといん作りを6年生といきいきサロンの方との交流で包丁の使い方など教えています。JA無償提供（野菜）農産物の自給率アップを期待しています。	食への感謝の気持ちや理解を深めるため、生産から消費のプロセスを知ることや地域の食を知ることが重要であり、農林漁業体験など食に関する様々な体験活動への参加を進め、農林水産業の重要性の啓発と地域の食への関心と理解を進めていきます。これらの取組は農産物の消費拡大や自給率向上につながるものと考えています。
I-1-1	12	ちば食育活動促進事業	安全農業推進課 食の安心推進室 食育推進班	大学生が職員体験プログラムに参加し食育と生産者との関連を学んだことは意義あることと思います。大学生が対象であるので単に体験に留まらず、食育を広める人材育成にも繋がると思います。	栄養士等を目指す大学生による食育体験プランの参加による、農林漁業体験や地産地消の取組は、農林水産業を身近に感じる機会が得られ、「食」と「農林水産業」について理解が深まることが期待されます。本事業は、農林水産業の理解促進と、若い世代における食育活動の活性化を目的としています。
I-1-1	13	いきいきちばっ子食育推進事業	学校安全保健課 給食班	食育ノートとはどのようなもので、どのように活用されているのでしょうか。	子供たち一人一人が楽しく「食」について学びながら、自らの食生活を振り返り、より望ましい食習慣を身につけられることを願って、食に関する学習ノート「いきいきちばっ子」を作成しています。ノートは、1・2年生用、3・4年生用、5・6年生用の3種類で、食に関する指導の教材・資料として、また、食を通じた家庭との連携の手だてとして活用されています。県のホームページからダウンロードできます。
I-1-1	14-2	豊かな人間関係づくり推進事業	教育政策課 教育立県推進室推進班 指導課教育課程室	「豊かな人間関係づくり実践プログラム」の展開例は教員関係者以外にも公開されていますか。新学習指導要領の本体内容もさることながら、教師の教育ファシリテート力の養成が益々必要なのではないでしょうか。また、具体的内容の上位概念を指導する等の教員の指導力はどのように育てるのでしょうか。	「豊かな人間関係づくり実践プログラム」の展開例については、指導計画や指導案、教材等を県教育委員会HPに掲載しております。指導者の育成については、新規採用から2、3年目の希望する教員を対象に、研修を実施し、授業の進め方や留意点等の講義や模擬授業などの演習を行っています。また、本プログラムのほか、道徳や特別活動をはじめとした様々な領域で、子どもたちの人間関係づくりに向けた教員の指導力向上を目指した研修を実施しております。
I-1-1	15	男女共同参画センター「男女共同参画講座等」の開催	男女共同参画課 企画調整班	1ヶ所集中ばかりではなく、地域ごとにオープン形式で、気軽に参加しやすいセミナーで手がかりを得るのはいいでしょうか。	地域団体の情報収集に努め、幅広い地域団体との連携を図ることにより、今後、地域の実情に応じた地域でのセミナーの開催について検討してまいります。
I-1-1	15	男女共同参画センター「男女共同参画講座等」の開催	男女共同参画課 企画調整班	「〇〇講座」というと身構えて何となく参加をためらいがちかと思うので、著名人による「講演会」で多くの人を集めて本題を付加して実施するよう試みられてはいいでしょうか。	男女共同参画シンポジウムでは、著名な講師による基調講演を核とし、パネルディスカッションなどと組み合わせるなどで集客に努めていますが、より参加しやすいよう、更に工夫を加えてまいります。
I-1-1	16	こどもエコクラブの育成	循環型社会推進課 環境保全活動推進班	サポーターの育成、研修が更に必要であると思います。サポーターのファシリテーション力によって、活動内容は大きく異なってくる事にサポーター本人達が気づいて自己研鑽できるような仕掛けが欲しいです。	平成28年7月2日にこどもエコクラブのサポーターを対象とした「サポーター会議@ちば」を開催し、活動内容が異なる各クラブの交流を図ることで、サポーターの自己研鑽を図りました。

重点 方策	番号	事業名	担当課	意見	担当課回答欄
I-1-1	16	こどもエコクラブの育成	循環型社会推進課 環境保全活動推進班	「登録数は年々増加しているが」は実数（クラブ数・登録人数）を評価シートに記載してはいかがでしょうか。	今後の記載にあたっては、実数記載についても考えます。
I-1-1	16	こどもエコクラブの育成	循環型社会推進課 環境保全活動推進班	子どもエコクラブの登録者数はどのくらいでしょうか。 「こども環境会議」に参加した87名はクラブ数でいくつになるのでしょうか。	平成29年3月末現在、千葉県内のこどもエコクラブ数は97、メンバー数は8,371名です（いずれも累計）。こども環境会議への参加クラブ数は9クラブです。
I-1-1	17	若者の文化芸術活動育成支援事業	県民生活・文化課 文化振興班	公演には世代を超えた人々にも鑑賞してもらい機会を増やし、評価、アドバイスのできる関係性をつくることから、芸術、文化の深みを作り上げることができるのではないのでしょうか。	公演の鑑賞については、世代を限らず多くの県民の皆様にご来場いただけるよう、引き続き県としても公演の周知を行ってまいります。
I-1-1	17	若者の文化芸術活動育成支援事業	県民生活・文化課 文化振興班	若者による芸術文化団体は多いので事業の積極的な周知を望みます。	募集案内の配布方法やホームページでの事業周知の仕方等を検討し、引き続き広報に努めてまいります。
I-1-1	18	消費者教育啓発事業	くらし安全推進課 消費者安全推進室	消費者教育・金銭教育・環境教育を組み合わせ、本当に必要なもの、欲しいもの、さらにその先の始末等の展望等を組み合わせた概要を理解する基本教育がなされた上であれば、パンフレット等の啓発事業はさらに効果的かと思われれます。（No.103と重複）	消費者教育は、環境教育や食育、国際理解教育、金銭・金融教育など様々な分野を貫くものであり、御指摘のとおり、基本的な理解を促すことは重要と考えます。そのため、関係機関と連携を図り人や社会・環境に配慮した消費行動（倫理的消費）の理解促進に向け、消費者教育を推進してまいります。
I-2-3	26	さわやかちば県民プラザ 「交流事業」「学習・研修事業」	生涯学習課 社会教育振興室 社会教育施設班	「3 事業の課題・問題点、今後の方向性」としても挙がっていますが、入門講座・実践者講座・の参加者が少ない原因分析はすすんでいるのでしょうか。広報・内容等の企画の前年度を含めた、分析が必要ではないでしょうか。	次年度からの事業実施に生かせるよう、現在の広報・内容等の企画全体につきまして、前年度を含めた原因を分析してまいります。
I-2-3	26	さわやかちば県民プラザ 「交流事業」「学習・研修事業」	生涯学習課 社会教育振興室 社会教育施設班	①ボランティア体験活動講座の対象者は誰でしょうか。（年齢） ②ヤングパワームーブメントや子どもチャレンジプロジェクトは面白い企画だと思います。	①ボランティア体験活動講座の対象者は県内の高校生となっています。公立・私立を問わず、毎年多数の参加希望者がいます。 ②今後も次世代を担う若者層への積極的な周知を行うとともに、受講者が継続的に参加できるように、講座内容の充実を図ってまいります。
I-2-3	27	千葉県NPO・ボランティア情報ネットの運営 ニュースレターの発行	県民生活・文化課 県民活動推進班	ニュースレター・ボランティア関連情報の棲み分けが明確になると、アクセスした人にも更に、便利になるのではないのでしょうか。	ホームページのボランティア関連情報については、引き続き助成情報や各種ボランティア情報を掲載し、アクセスしやすいページ作りに努めてまいります。なお、ニュースレターについては、購読者数の減少等により、平成29年3月で休刊することとしました。
I-2-3	30	ライトブルー少年賞事業	県民生活・文化課 子ども・若者育成支援室	地道な善行活動に光を当てて表彰する素晴らしい制度です。昨年度は受賞者数が減少しました。学校や団体などで更に広めていく事業です。	学校や関係団体に候補者の積極的な推薦を働きかけるとともに、広く事業の周知に努めてまいります。
I-2-3	30	ライトブルー少年賞事業	県民生活・文化課 子ども・若者育成支援室	応募者が少ないせいか、予算執行率48.5となっており、29年度は前年度並みの予算案になっていますが新規の計画があるのでしょうか。受賞者のその後の活動支援を具体的にしなければ、本賞の意義は薄くなる一方ではないでしょうか。	28年度は27年度に比べ受賞者が減少し、結果として予算残が生じていますが引き続き、青少年の善意や親切心に基づく善行を広く表彰し活動を称えとともに、その気運を広めてまいります。
I-2-3	31	内閣府青年国際交流事業における 参加青年の選考	県民生活・文化課 子ども・若者育成支援室	成田を抱える千葉県にとって青少年の国際感覚醸成は、重要なアイテムです。募集期間をもっと長くしてほしいです。末端の単位組織まで通達するのに相当日数を要しますので、早めの広報を願いたいと思います。	広く事業の周知を図るとともに、関係機関の協力を得ながら、早めの募集に努めてまいります。
I-2-3	31	内閣府青年国際交流事業における 参加青年の選考	県民生活・文化課 子ども・若者育成支援室	選考に係る予算措置がなされていないが、どの様な選考基準をもうけ、どの様な選考をしているのでしょうか。また、選考された15名へのレクチャーや表敬訪問・千葉県をアピールするグッズ等を持たせたりする費用は別の事業なのでしょうか。県を代表して送り出されるかどうかは派遣者にとってはとても大事なモチベーションになり、教育効果が高くなると思われます。	各応募者から提出された参加申込書及び作文の記載内容に基づき、内閣府の定める応募資格及び参加者としての推薦にふさわしい者であるかについて、選考審査を実施しています。選考された者に対しては、千葉県青年国際交流機構が事業説明・報告会・勉強会等を開催しております。

重点 方策	番号	事業名	担当課	意見	担当課回答欄
I-2-3	32	幕張アジアアカデミー事業	国際課 国際交流協力室	アジア、アフリカの国々にも関心を持ってもらう良い機会だと思います。	引き続き、アジア経済研究所と連携しながら実施してまいります。
I-2-3	32	幕張アジアアカデミー事業	国際課 国際交流協力室	本事業取り組みは、未来を担う若者達にとってインパクトのあるものです。グローバル化が加速され、経済も環境、文化も変化している今や、高校生では遅すぎるのではないのでしょうか。(小学校高学年、又は中学生に必要なことではないか。)また、財源が小額過ぎではないのでしょうか。民間に託して、大手企業等の助成支援が受けられれば良いと思います。	幕張アジアアカデミー事業は、アジア経済研究所開発スクールで半年間研修しているアジア、アフリカ各国の行政官等が、自国の文化等について英語で授業を行うもので、生徒による英語でのプレゼンテーションやディスカッション等高度な内容も盛り込まれていることから、対象を高校生にしております。
I-2-3	33	東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業	体育課スポーツ推進室 オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援班	事業成果に記載されているリオ出場27名、18名入賞はこの事業の成果と言えるのでしょうか。この事業の目標と成果・課題の整理が甘いのではないのでしょうか。	確かに本事業の成果のみでリオ出場を果たしたわけではなく、その他多くの支援と併せての成果と認識しております。ただし、国体で32年ぶり5位入賞や全国高校総体で団体種目が過去最高の優勝数など、強化指定選手が多く出場する大会で好成績を収めたことや競技団体からの聞き取り等も考慮し成果はあると認識しています。
II-3-5	44-1	子ども・若者育成支援推進事業	県民生活・文化課 子ども・若者育成支援室	居場所や支援ネットワークの調査結果、現状はどのような状況でしょうか。	居場所調査では、各団体の取組は様々で、就労や復学の支援に力を入れるところや、安心していられる居場所の提供を主にしているところなどがあることがわかりました。運営面では、既存の制度を活用しているところもありますが、多くは厳しい運営となっています。また、行政による広報や認定制度などがあることよいという声がありました。市町村ネットワーク状況調査では、新たに子ども・若者支援地域協議会の設置を予定している市町村はない一方、要保護児童や義務教育中の不登校児童を対象としたネットワーク整備は進んでいることがわかりました。
II-3-5	44-2	子ども・若者育成支援推進事業	県民生活・文化課 子ども・若者育成支援室	29年度予算は、前年実績金額より480万円増額されており、新規事業としての保護者・関係機関との勉強会の充実に期待しています。	平成29年度新規事業として、子ども・若者総合相談センターにおいて面接相談(予約制)を開始するとともに、保護者向け勉強会や関係機関向け勉強会を各年6回実施することになりました。また、子ども・若者総合相談センターを広報するためのリーフレットを新たに作成しました。保護者向け勉強会は、子どもとのかかわり方等についての講義や、参加者同士の意見交換により悩みの共有を図っています。関係者向け勉強会は、毎回テーマを決め、テーマに精通した機関の職員を交え、事例検討等を実施し、関係機関の連携を強化しています。
II-3-5	45	障害者条例、障害者差別解消法関連事業	障害者福祉推進課 共生社会推進室	29年度予算額は、前年度とほぼ同額ですが、新規計画はあるのでしょうか。	平成28年度の障害者差別解消法の施行に併せ一部事業を追加したところであり、現在のところ新規計画はありません。今後も引き続き、同事業に取り組んでまいります。
II-3-5	45	障害者条例、障害者差別解消法関連事業	障害者福祉推進課 共生社会推進室	先進的取り組みを更に推進していただきたいです。	今後も引き続き、共生社会の推進に努めてまいります。
II-3-5	45	障害者条例、障害者差別解消法関連事業	障害者福祉推進課 共生社会推進室	発達障がいや身体障がい者が健全な児童と同じクラスで協力し合って学ぶことができることもよい事だと思います。	障害のある児童生徒、障害のない児童生徒も同じ社会に生きる人間として、互いに正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶため、交流及び共同学習の推進を図っていきます。【回答課：特別支援教育課】
II-3-5	46	ひきこもり地域支援センター事業	障害者福祉推進課 精神保健福祉推進班	44-2等の電話相談などのかかわり、連携課題はどの様に行なっているのでしょうか。「3 事業の課題・問題点、今後の方向性」に記載された、今後の方向性の具体策に期待をします。	必要により相互に受理した相談を紹介等しています。また、今年度から子ども若者相談で実施している事例検討等に随時参加し、必要時の連携や相互研鑽に努めています。
II-3-5	47	訪問相談担当教員の配置	指導課 生徒指導・いじめ対策室	訪問相談担当教員の活動には敬意を表します。教員の活動をサポートする地域住民にも協力できる制度・研修が必要ではないのでしょうか。	不登校児童生徒に関しては個人情報などが多く含まれることから、その対応には慎重さが求められます。その点から、地域の方々にご協力をいただくのは難しいことと考えられます。児童生徒の心理面に関することはスクールカウンセラー、福祉面に関することはスクールソーシャルワーカーなど、必要に応じて専門家に協力を仰ぎながら一つ一つの事案に対していねいに対応しています。

重点 方策	番号	事業名	担当課	意見	担当課回答欄
II-3-5	47	訪問相談担当教員の配置	指導課 生徒指導・いじめ対策 室	不登校対策拠点校の指定、訪問相談担当教室の配置をもっと拡大すべきではないでしょうか。	※「訪問相談担当教室」ではなく「訪問相談担当教員」でしょうか。 訪問相談担当教員の支援している不登校児童生徒数や対応件数は年々増加傾向にありますが、対象となる児童生徒の状況を踏まえつつ、訪問先の所在地等を考慮して、効率よく訪問相談ができるようにするなど、できるだけ多く、ていねいに対応するために工夫して活動しています。
II-3-5	51	外国人児童生徒等教育に関する連絡協議会	指導課 教育課程室	外国人が増えています。将来的にも増えていくと思いますので、日本を理解し友好的になって貰うためにも児童生徒に対する教育は大事です。しっかりとした取り組みを期待します。	年3回の日本語指導担当者連絡協議会を通して、外部講師から指導方法を学んだり、参加者の情報交換・授業参観を実施したりしています。
II-3-5	51	外国人児童生徒等教育に関する連絡協議会	指導課 教育課程室	日本語理解が不十分な外国人生徒を支援するNPO等の団体もあります。連携や情報交換して必要なニーズを把握するべきではないでしょうか。	県国際交流センターやNPO等と連携し、日本語指導担当者連絡協議会でも情報交換するなどの取組を行っているところです。
II-3-5	53	千葉県教育支援委員会	特別支援教育課 教育支援室	就学後の支援とフォローアップの充実により、特別支援学校から、小・中学校への転学も可能になるのは望ましいと思います。	今後も、フォローアップの事例検討を行う等、児童生徒のニーズを踏まえ、それぞれの可能性を最大限に発揮できる教育の場について、十分な検討を進めてまいります。
II-3-5	54	高等学校特別支援教育支援員配置事業	特別支援教育課 教育支援室	困難な状況にある高校生が支援により介助を受けながら学校生活を送れることは素晴らしいと思います。	今後も、日常生活上の介助・学習支援を必要とする生徒への適切な指導・必要な支援を行うために、関係学校、関係機関等との連携を密にして、特別支援教育支援員の配置を継続してまいります。
II-3-5	55	教育相談事業の充実	子どもと親のサポート センター 教育相談部	「3 事業の課題・問題点、今後の方向性」で記載されているように、益々多岐にわたったニーズに対応出来る分野横断的な視点を持つ専門性のある人材の養成が必要ではないでしょうか。また、関係機関の連携協力体制の構築を具体的な仕組みとして取り組んだり、担当者の資質向上を目指していただきたいです。	千葉県スクールカウンセラー等取扱要綱に基づいて配属されているスクールカウンセラー（以下、SC）及びスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）と各教育事務所及び各市町村等教育委員会のSC及びSSW担当指導主事を対象に全体研修、連絡協議会を実施し、資質の向上を図るとともに活動の在り方についての研究協議を行いました（341名参加）。さらに、訪問相談担当教員研修会を7回（対象者12名）、SSW研修会を5回（対象者12名）を実施し、その内3回を合同の研修会として相互の情報交換、連携体制の構築を図りました。また、子どもと親のサポートセンターの相談担当所員・嘱託職員には精神科医及び大学教授等の教育臨床や特別支援教育の専門家からの個別のケース相談や事例検討会を年間30回実施し、多岐にわたる相談内容に応じられる資質の向上に努めています。
II-3-5	56	ちば地域若者サポートステーション事業	雇用労働課 若年者就労支援班	若者の自立、就労支援として今後も更に推進していただきたいです。	今後も若年無業者等の職業的自立を支援するため、事業の推進に取り組んでまいります。
II-3-6	58	生活福祉資金貸付事業	健康福祉指導課 自立支援班		生活福祉資金（教育支援資金）貸付事業は、市町村社会福祉協議会が窓口となり、低所得世帯（市町村民税非課税程度）で高校・大学等に就学する者に対して、月65,000円以内の資金を無利子で貸し付けるものです。また、就学支度費（入学金等）の貸付けも行っていきますが、原則として、千葉県奨学資金貸付事業等、他の貸付制度を利用した上で、不足分について利用することとなります。 千葉県奨学資金貸付事業は、県教育庁が窓口となり、一定の基準額以下の世帯で高校等に就学する者に対して、月1万円～3万円（自宅通学の場合）の奨学資金を無利子で貸し付けるものです。また、貸付終了者からの返還金を次の貸付原資としており、県の一般会計からの繰入れは受けていないことから、給付型とした場合、制度の持続的な運用ができないため、給付型への移行は困難です。 なお、低所得世帯向けに「奨学のための給付金制度」を実施しており、こちらは返済不用の制度となっています。 それぞれの制度では、高校卒業後（大学・専門学校等）の就学者を対象とするか否か、貸付ができる世帯の所得額の要件及び貸付額が異なっています。
II-3-6	61	千葉県奨学資金貸付事業	財務施設課 予算調整室育英班		計画番号58と61の違いはなんですか。 高校生は返済の必要がないものになるよう期待します。
II-3-6	61	千葉県奨学資金貸付事業	財務施設課 予算調整室育英班	国の奨学金でも返還金滞納が問題となっています。返還義務の周知徹底のためにも、滞納者数をここに記載してはいかがでしょうか。	記載いたします。

重点 方策	番号	事業名	担当課	意見	担当課回答欄
II-3-6	59	子ども医療費助成事業	児童家庭課 母子保健班	28年度は当初予算額に対し決算額が下回っているため、通院補助対象を拡大すべきではないでしょうか。	県では、子ども医療費について、入院は中学校3年生まで、通院は小学校3年生まで助成を行っているところであります。県としては、現行制度の内容は保健対策上及び経済的負担の軽減を図る観点から有効であると考えており、引き続き安定して継続的に制度を維持してまいります。
II-4-7	66	少年に手を差し伸べる 立ち直り支援活動	警察本部少年課	立ち直り支援をさらに推進していただきたいです。	引き続き、地域社会との絆の強化を図り、少年の立ち直りを支援することで、非行少年を生まない社会づくりを推進してまいります。
II-4-7	69	タッチヤング活動	警察本部少年課	前向きな事業として評価できると思います。大会以外に柔剣道場のある警察署ごとの教室開催に費用を増やし開催したらよいと思います。	タッチヤング活動に関する予算は、大会運営費用だけが容認されている状況です。県財政が厳しい情勢ですが、本活動が更に発展するよう努めてまいります。
II-4-7	70	自転車盗難対策推進モデル校事業	警察本部生活安全総務課 犯罪抑止推進室	「自転車悪質運転58件増」と新聞でも報ぜられているとおり自転車の悪質運転が増えてきています。青少年が被害者や加害者になるケースもあります。自転車盗難対策もさることながら、スマホながら運転、夜間無灯火など運転マナーの指導強化を望みます。	本事業は、自転車の盗難防止を学生、生徒と共に推進する事業となります。自転車の乗り方等の指導は各署の交通課員が小学校などで実際に自転車を使用して自転車の乗り方を指導しているほか、「子ども自転車千葉県大会」を開催するなどして交通安全教育を推進しております。
II-4-7	70	自転車盗難対策推進モデル校事業	警察本部生活安全総務課 犯罪抑止推進室	毎日のように防犯メールで自転車の盗難が配信されず。なお一層の取組をお願いします。	今後も引き続き自転車盗難の抑止対策に努めてまいります。
II-4-7	71	薬物乱用防止対策事業	薬務課 麻薬指導班	アンケート調査の結果を分析し、事業の効果を検証しているのが良かったと思います。	アンケート調査結果を参考として、薬物乱用防止教室の更なる開催や効果的な啓発広告を実施してまいります。
III-6-11	98	自主防犯意識の醸成促進事業	くらし安全推進課 防犯対策推進室	事業成果として記載されている内容を実施したその結果、「〇〇のような防犯意識の高揚が見られた」等具体的な成果を記載してほしいです。	引き続き、効果的な啓発物品の配布などの広報・啓発に取り組み、「自分たちのまちは自分たちで守る」という防犯意識を醸成してまいります。
III-6-11	101	地域の防犯力アップ補助事業	くらし安全推進課 防犯対策推進室	パトロール資機材にはどのようなものが含まれるのでしょうか。	補助対象のパトロール用資機材は、ジャンパー、ベスト、帽子、腕章、タスキ、強力ライト（懐中電灯）、信号灯、マグネットシート、青色回転灯、拡声器、防犯ブザー、のぼり旗等、地域住民が自主防犯活動に使用する資機材若しくは装備品となっております。
III-6-11	103	消費者教育啓発事業 (再掲)	くらし安全推進課 消費者安全推進室	消費者教育・金銭教育・環境教育を組み合わせ、本当に必要なもの、欲しいもの、さらにその先の始末等の展望等を組み合わせた概要を理解する基本教育がなされた上であれば、パンフレット等の啓発事業はさらに効果的かと思われます。(No.18と重複)	消費者教育は、環境教育や食育、国際理解教育、金銭・金融教育など様々な分野を貫くものであり、御指摘のとおり、基本的な理解を促すことは重要と考えます。そのため、関係機関と連携を図り人や社会・環境に配慮した消費行動（倫理的消費）の理解促進に向け、消費者教育を推進してまいります。
II-4-7	63	青少年非行防止対策事業	県民生活・文化課 子ども・若者育成支援室	No.106「青少年ネット被害防止対策事業」で得た実際の情報をいろいろな機会をとらえて保護者等に対してアピールすることが大事だと思います。	児童生徒、保護者、学校関係者等を対象として、インターネットの適正利用に係る講演を実施しており、こうした場において、ネットパトロールで得た実際の情報を紹介し、青少年によるネット利用の現状や危険性について、説明してまいります。
III-6-11	106	青少年ネット被害防止対策事業	県民生活・文化課 子ども・若者育成支援室	ネットパトロールは、きめ細かく個別に漬してゆくの効果が事業です。また保護者や指導者・学校職員への生の加工されない情報のフィードバックは統計的な数字より効果的です。学校等での講演を広く実施し、ぜひ発展継続実施すべき事業です。	

重点 方策	番号	事業名	担当課	意見	担当課回答欄
Ⅲ-6-11	106	青少年ネット被害防止 対策事業	県民生活・文化課 子ども・若者育成支援 室	ネット監視員は子ども達の被害防止に重要な 役割を担ってくださっていますが人員は2人 で大丈夫なのでしょうか。	インターネットの利用者やコンテンツは膨大であり、県 によるネットパトロールによる監視・指導には限界があ ると考えております。今後は、県で培ったノウハウを市 町村に提供し、青少年により身近な市町村等でのネット パトロールの実施を働きかけ、地域で青少年を見守る体 制作りを進めてまいります。
Ⅲ-6-11	107	フィルタリングの普及 促進に向けた 広報啓発活動	警察本部少年課	No.106「青少年ネット被害防止対策事業」で 得たナマ情報を普及に活用されるとよいと思 います。	関係機関との連携を図りながら、今後も推進して参りま す。
Ⅲ-6-11	108	サイバー犯罪対策の推 進	警察本部 サイバー犯罪対策課	29年度決算覧にある、263の数字は削除し忘れ でしょうか。	平成29年度中の決算額はまだ確定しておらず、削除漏れ とと思われます。大変失礼いたしました。
Ⅲ-6-11	108	サイバー犯罪対策の推 進	警察本部 サイバー犯罪対策課	益々ネットリテラシーの啓発が必要と思いま す。	ネットリテラシーとは、本来「インターネットを正しく 利用する能力」との意味合いで使われることが多いよう ですが、ネット安全教室では、その意味合いを若干限定 し、「インターネットトラブルに巻き込まれないための 自衛能力」という意味合いで使用しております。こうし た考え方はまだネット利用者に浸透していないため、児 童生徒のみならず保護者や教職員を対象としたネット安 全教室でも積極的に広報啓発してまいります。
Ⅲ-6-11	109	暴走族総合対策の推進	警察本部交通捜査課	暴走族の弊害を阻止するには、「加入をさせ ず離脱を促す」ということで、暴走族相談員 の地道な活動には、頭が下がります。青少年 健全育成のためご健闘を期待します。	継続して事業を推進してまいります。